

笑顔でつなぐ、未来へつなぐ 職場リレーの女子駅伝 株式会社紙資源名古屋

職場リレーの第六走者は、株式会社 紙資源名古屋（代表取締役 加藤友美氏 愛知県江南市般若町南山 163-1）の加藤氏のご家族です。昭和46年創業、愛知県を中心に岐阜県、三重県、長野県、滋賀県、福井県、静岡県と広範囲から排出される廃棄物・重量物の処理、古紙回収を行っています。今回は二代目の代表取締役 加藤友美氏、長女の古紙リサイクルアドバイザー営業 小室可南子氏、創業者であるお母様の会長 大島君子氏ら三名の方にお話しを伺いました。

★女性経営者として女性の働き方についてお聞かせください。

加藤：二代目として5年目になります。創業者から引き継ぎ、“任された以上は、やり通さねば”の一心で業務に当たっています。経営者としては、産廃業界にこだわらず、経済団体など多方面に見識を広めるようにしています。また異業種の方とも積極的に交流し、人脈ネットワークを広げる機会としています。

女性の働き方については、私自身は母の仕事ぶりを見て育ってきたので、仕事の上では男女関係なく力仕事も同じように従事してきました。しかし、弊社の事務員さんの中にはお母さんもいるので、運動会などの行事参加の時は、休んでいただけるようにしています。行事がお母さん同士重なる場合もありますが、極力周りでフォローし合い働きやすい環境を社員の方と一緒に考えています。現在は女性ドライバーや営業の方の登用も検討しているところで、男女による働き方の区別はありませんが、強い

て言えば、家庭のある女性の場合、残業ができない、休日出勤ができないということがありますので、その辺りの配慮は必要です。また雇用の形態もその方々により変化させなくては、この人材不足の状況は乗り越えられ



History



左から加藤友美さん、お母様の大島君子さん、お嬢さんの小室可南子さん

ません。

私の希望としては、この業界に女性の活躍の場をもっと増やしていければと思っていますので、協会行事にも積極的に参加しています。最近は支部行事にも女性の参加者が増えましたので、行きやすくなったと感じます。

★社長がお母様である環境についてお聞かせください。

小室：私は弊社に入社して4年目になります。業務は経理と営業を担当し、社長の秘書も務め1年になります。社長が外出する際は同行し、社会勉強も含め仕事への取り組み方、営業のノウハウなどを学んでいます。実践を通じて体得できる良い環境であると共に母の別の一面を垣間見、尊敬の念を感じます。ただ経営者の会合等はこの業界に限らず男性が多く、女性が少ない時など20代の私は気後れすることがあります。しかし職業人として日々社会の動向に目を向け、世界経済の変化に関心を持ち、産廃業界の置かれている状況や方向性について、母を代表として持つジュニアとしての意見が発せられるよう、自己の確立を目指しています。そうすることにより、男女差なく社会的な視野を広げることができ、業務にも活かして自己の成長につながると考えます。





★創業者としての思いについてお聞かせください。

大島：初代としての思いというよりも、ただひたすら走ってきたという感じです。私の年代で次の世代になる娘に継承できたことは夫のおかげです。夫婦二人でがむしゃらに走り、目の前の仕事は出会った方々に助けていただき、今があります。いろんなご縁で助けていただき、本当に仕事は人ですね、それしかありません。夫のパートナーであり、ナンバー2であり、男性と同じ仕事をしてきたため、母親業は手薄だったのかもしれませんが、それでも子ども達3人と孫達が私たちの思いを継いで、後を守ってくれているので、これほどの幸せはないと感謝しています。

世代交代がスムーズにいかない場合もあるようですが、私は事業継承した時点で一切何も言わないと決めていました。ただ娘には重責を負わせたのではないかと気にはかけておりますが、信じた道を進んでほしいと願っております。

★それでは、産廃業界の仕事に関心がある方へメッセージをお願いします。

弊社の場合は、女性目線のクリーンな印象を持っていただけるような業界のイメージを大切にしています。入社後の社員教育として、身だしなみを整えることから、挨拶の仕方など仕事をする上でのマナー教育から始めています。応募者の方からの問い合わせの多い“休日・残業”については、働き方改革に沿った対応を重視しております。

今は男性でも育児に参加されている方もあり、必ず休みが確保できるかどうかは重要であり、それを無くしては社員さんの定着も望めません。今はどの企業も働く方にとってのより良い会社作りが重要であると感じています。

弊社では、福利厚生ของボウリング大会、バス旅行などお子さんも含めた家族同伴で、参加をさせていただいております。お母さんの職場の方達と一緒に楽しみ、働くお母さんを理解をしていただく場を提供させていただいております。また社内の掲示板には、パートさんの中学生のお子さんが、夏休みの課題に廃棄物をテーマにした作品を掲示してあります。作品は金賞を受賞し、お母さんの職場が環境へ興味を持つきっかけとなった環境教育につながり嬉しい限りです。いずれは会社のポスターにしようと思っています。

今回私は、女性でも産廃業界で活躍でき、受け皿となる各企業も福利厚生が充実しており準備万端であるとお伝えしたいです。もちろん老若男女の方にとっても活躍の場は広く、業界の門戸は大きく開いております。

★最後に次の企業さんへのメッセージをお願いします。

弊社の今年のスローガンが、“何事にも感謝する心を持ち続ける”です。仕事をいただけることに感謝、それは当たり前ではない、日々感謝することにより人として成長できるように、という思いからです。昨年「社員感謝祭」を行い、弊社に関わる方が一堂に会し食事会を開催しました。日頃の感謝は“言葉にして、形にして伝える”ことは大切です。

取材時に急遽お母様の大島君子さんにご参加いただき、会社の歴史を語っていただきました。ところが実はもう一代前の御祖母様もご健在であると同じ、同社の歴史を代々継いでこられたのは、女性であることに感動いたしました。偉大な御祖母様やお母様のもと、加藤社長の益々のご活躍を期待しております！